

特 許 庁

実用新案出願公告

104 A 20

## 実用新案公報

昭 40-6148

公告 昭 40. 2. 28

( 金 2 頁 )

## 反射鏡

実 願 第 36-85868  
 出 願 日 昭 36. 7. 14  
 考 案 者 植波昌成  
 出 願 人 植波昌成  
 秋田市明田島場前 10  
 同 鈴木文四郎  
 秋田市手形山崎 22 の 8  
 代 理 人 弁理士 藤澤義治 外 1 名

## 図面の簡単な説明

第 1 図は本案品の正面図、第 2 図は同上斜视图、第 3 図は A-A 線縦断面図、第 4 図は B-B 線横断面図である。

## 考案の詳細な説明

本考案は視認範囲を広めて危険発生を防止することを目的とした反射鏡に係るもので、鏡体 1 の上半部 2 を横断面半円弧状に形成し、下半部 3 を鏡体 1 の背面 4 に向つて、下方向ならびに横方向にそれぞれ弧状に彎曲形成したことを特徴とするものである。

しかして鏡体 1 の中央には鏡体 1 を上下に二分する分岐線 5 を、また上半部 2 の中央および下半部 3 の左右側縁にはおのおの縦方向の分岐線 6, 7, 8 を夜光塗料等で描出し、障害物、走行車等の上下および左右の位置を知り、夜間においても認識できる様にする。また鏡体 1 の一端に支柱 9 を廻動自在に取付ける。本考案の構成を説明すると、第 2 図に示すように鏡体 1 の上半部 2 を、横断面が半円弧状となるように薄盤型に形成すると共に

下半部 3 の正面中央部は鏡体 1 の下端に向つて下方向に彎曲形成し、更に下半部 3 の左右側縁部は鏡体 1 の背面に向つて左右方向に彎曲形成する。

本考案は上述のように構成したので、本案品を例えば自動車等の車体の前方に取付けて使用すれば運転者は鏡体 1 の上半部 2 の中央部の鏡面によつて、従来のバックミラーと同様車体の後方を監視できるばかりでなく、上半部 2 の左右側縁部の円弧状彎曲鏡面が、車体の左右横方向および斜後方向等運転者の視界外の障害物、走行車等を映し、鏡体 1 を車体の最先端に取付けて使用すれば特に、狭い十字路を運転する際視界が狭小で衝突等の危険性の大きい場合は、鏡体 1 が運転者より前方に位置しているので、交叉路の左右の歩行者や走行車を映し、それ等のものが運転者自身の視界内に入る以前に運転者が認識し、事故を未然に防止出来、また鏡体 1 の下半部 3 の中央部および左右側縁部の彎曲鏡面によつて、運転者は車体の直前直下および左右下側方を監視出来、特に大型自動車において車体の直前の横断者特に幼児、または障害物等を知ることが出来る等、従来のバックミラーに比べて視認範囲を著しく拡大し、安全運転を期し得られた、本案品を小型船舶、あるいは工場作業場、土木工事場等で使用する走行車等に取付け使用すれば、航行あるいは作業の安全を期し得られる等の実用上の効果を有するものである。

## 実用新案登録請求の範囲

本文に詳記するように鏡体 1 の上半部 2 を横断面半円弧状に形成し、下半部 3 を鏡体 1 の背面 4 に向つて、下方向ならびに横方向にそれぞれ弧状に彎曲形成したことを特徴とする反射鏡。

(2)

実公 昭 40-6148

